

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
小児看護学概論	1 単位(30)	1 年次 9 月	専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 小児看護の概念と子どもと家族を取り巻く環境を理解できる。
- 2 子どもの成長・発達の基本的な知識が理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
小児看護の 概念	1 小児医療と小児看護の変遷と課題が理解できる	1 小児医療の変遷と課題 < 1回2h > 2 小児看護の変遷と課題 3 子どもと家族の看護の理念 1) 子どもと家族を看護する看護師の役割 2) 子どもと家族の置かれている状況	
	子どもの成長・発達	2 子どもの特徴や成長発達が理解できる 1 子どもの年齢区分 < 5回10h > 2 子どもの特性 1) 子どもの特徴 2) 子ども各年齢区分の発達課題 3 成長発達 1) 成長発達の原則 2) 成長発達の影響因子 3) 形態的・機能的発達 4) 心理社会的発達 5) 成長発達の評価	
子どもと家族を取り巻く環境	3 子どもの権利について理解できる 1 子どもと家族の状況と最善の利益を守るかかわり 1) インフォームド・アセント 2 子どもと家族とのかかわり 3 子どもの権利と小児看護における倫理 1) 倫理の定義と原則 2) 日本の子どもと家族に関する法律 ① 日本国憲法 ② 児童福祉法 ③ 母子保健法 ④ 予防接種法 ⑤ 児童虐待防止法 ⑥ 障害者総合支援法 ⑦ 食育基本法 3) 児童憲章 4) 児童の権利に関する条約		
	4 子どもの健康指標と保健対策を理解できる 1 諸統計からみた子どもと家族の健康問題 1) 出生と家族、死亡数と原因 2) 有病率：齲歯と視力障害とアレルギー 3) 子ども各期の栄養の特徴と課題と看護 4) 子どもの貧困 5) いじめ 6) 不登校 7) 自死 8) 虐待 9) 電子メディアの子どもへの影響と対策 10) 子どもと傷害（事故）の特徴と防止策 ① 各発達段階に起こり得る傷害（事故） ② 安全な環境 ③ 安全な社会づくり		
	5 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用について理解できる 1 母子保健政策の活用 1) 子育て支援 2 小児保健医療福祉政策の活用 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> 【保育園見学】 < 1回2h > </div>		
			【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
小児の発達段階に応じた看護	1 単位(15)	2 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員等)	1 5 (1 5)

科目目標

- 1 子ども各期の発達段階に応じた看護を理解できる。
- 2 子ども各期の日常生活援助技術を理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
発達段階に応じた看護	1 乳児期にある子どもとその家族への看護が理解できる	1 乳児の健康増進と安全および家族への支援 <5回10h> 1) 離乳食 2) 運動と遊び 3) 事故防止 4) 母子関係の確立 5) 母子分離不安・アタッチメント 6) 母子保健サービスの活用 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【演習】 <1回2h> 子どもの遊び </div>	
	2 幼児期にある子どもとその家族への看護が理解できる	1 幼児の健康増進と安全および家族への支援 1) 食生活と栄養(食育) 2) 基本的な生活習慣の確立 3) 自我の発達と遊び 4) 予防接種 5) 事故防止と安全対策 6) 家族指導 7) 母子保健サービスの活用	
	3 学童期にある子どもとその家族への看護が理解できる	1 学童の健康増進とセルフケアおよび家族への支援 1) 食生活 2) 学校への適応 3) 学習と遊び 4) 生活習慣病の予防 5) 二次性徴 6) 事故防止と安全教育 7) セルフケアと保健教育 8) 学童の情緒と家族の関係	
	4 思春期にある子どもとその家族への看護が理解できる	1 思春期にある子どもの健康増進とアイデンティティの確立および家族への支援 1) セルフケアと保健教育 2) こころの発達 3) 食生活 4) 親からの自立 5) 異性への関心	
日常生活の援助技術	5 子どもの日常生活の援助技術が理解できる	1 乳幼児の日常生活援助技術 1) 乳児の抱き方 2) 衣服の着脱とオムツ交換 3) 小児の安全 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 20px;"> 【校内実習】 <1回2h> 1 身体計測 2 乳児の抱き方 3 衣服の着脱・オムツ交換・清拭 4 各援助に関する安全対策 </div>	【評価】 筆記試験 (1h)

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
小児の健康状態に応じた看護	1 単位(30)	2 年次 5 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	3 0 (3 0)

科目目標

- 1 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護を理解できる。
- 2 疾病の状態に応じた子どもと家族の看護を理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
子どもの状況に応じた看護	1 子どもの入院環境が理解できる	1 医療を受ける子どもの権利擁護 < 5 回 1 0 h > 2 人的環境・物理的環境・安全管理 1) 環境：子ども用ベッド・保育器の取り扱い 2) 傷害の予防：転倒・転落・外傷予防	
	2 病気・入院が子ども・家族に与える影響が理解できる	1 病気に対する子どもの理解と特徴 1) 各発達段階別の子どもの病気の理解度 2) 子どもの理解に関連する要因 3) 発達に応じた説明 2 成長発達に及ぼす影響、ストレスと対処行動 1) 子どもが入院に伴い体験することとその反応 3 子どもの入院に伴い家族が体験することとその反応 4 入院している子どもと家族の支援 1) 入院時のオリエンテーション 2) 入院している子どもへの看護 ：発達段階別・入院期別・入院の種類	
	3 外来における子どもと家族の看護が理解できる	1 緊急度の把握・トリアージ・感染症対策 2 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 3 健康診査・育児相談	
	4 虐待を受けている子どもと家族への看護が理解できる。	1 子どもへの虐待の特徴 2 虐待のリスク要因と虐待の早期発見 3 虐待の未然防止に向けての支援 4 多機関・多職種の連携・協働	
	5 医療ケアを必要として退院する子どもと家族の看護が理解できる	1 入院生活から在宅への移行に向けた支援 2 多職種との連携と社会資源の活用 3 在宅療養中の子どもと家族の支援 4 子どものセルフケア行動の促進	
	6 災害を受けた子どもと家族の看護が理解できる	1 災害による子どもへの影響とストレス 2 災害を受けた子どもと家族への援助 3 災害時における緊急時の把握・トリアージ	
疾病の状態に応じた子どもと家族の看護	7 急性状態にある子どもと家族の看護が理解できる	1 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 < 4 回 8 h > 2 発熱時の看護 3 下痢・嘔吐がある時の看護 4 脱水時の看護 5 呼吸困難時があるときの看護 6 けいれんがあるときの看護	

小児疾患の特徴	8 慢性期にある子どもと家族の看護が理解できる	1 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 2 小児慢性特定疾患治療研究事業 3 疾患による子どもと家族の生活の変化 4 学習支援と復学支援 5 発達に応じたセルフケア獲得と援助 6 セルフケア能力の獲得のための養育と家族への支援 7 地域との連携と調整	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)
	9 終末期にある子どもと家族の看護が理解できる	1 子どもの死の概念 2 死に対する子どもの反応と援助 3 子どもへの病気への説明 4 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア 5 子どもの死を看取る家族の反応と援助	
	10 先天的疾患のある子どもと家族の看護が理解できる	1 先天異常の種類と特徴 2 子どもの発達段階に応じた援助 3 子どもの疾患に対する家族の理解と受容への援助 4 養育とケア技術獲得に関する家族への援助	
	11 心身障害のある子どもと家族の看護が理解できる	1 心身障害の定義と種類 2 家族と子どもの障害の受容 3 重症心身障害児と家族 4 医療的ケアの必要な超重症児と家族 5 発達障害児と家族	
	12 子どもに特徴的な疾患の病態・検査・治療を理解できる	1 先天異常および神経疾患 <* 5回10h> 1) 先天異常の種類と特徴 2) 染色体異常 3) 筋疾患 4) 脳性麻痺 5) てんかん 2 小児内科疾患 1) 肺炎 2) 喘息 3) 感染症 (麻疹・急性乳幼児下痢症) 3 循環器疾患 1) フェロー四徴症 2) 心室中隔欠損 3) 川崎病 4 小児外科疾患 1) ヒルシュスプルング病 2) 鎖肛 3) 腸重積症 4) 二分脊椎 5 腎・泌尿器疾患 1) 急性腎炎 2) ネフローゼ症候群 6 血液・造血疾患 1) 白血病 2) 紫斑病	

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
治療を受ける 小児の看護	1 単位(30)	2 年次 9 月	専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
検査・処置を受ける子どもと家族	1 検査・処置を受ける子どもと家族への看護が理解できる	1 発達に応じた説明と同意 <1回2h> 2 子どものフィジカルアセスメント・バイタルサイン測定 3 検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への援助 1) 採血 2) 採尿 3) 骨髄穿刺 4) 腰椎穿刺 5) 与薬 6) 輸液療法 7) 吸入・吸引 8) 酸素療法 9) 経管栄養 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 【演習 <1回2h>】 プレパレーション </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 【校内実習】 <3回6h> 1 バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント 2h 2 治療上必要な固定 1回 3 採尿パックの取り扱い 4 点滴静脈内注射の準備 (輸液ポンプ・シリンジポンプ取扱い) 4h 5 吸入・吸引 2回 6 酸素療法 など </div>	
	治療を受ける子どもと家族	2 活動制限が必要な子どもと家族の看護が理解できる <4回8h> 3 隔離が必要な子どもと家族の看護が理解できる 1 隔離の目的・方法 2 身体的・心理的・社会的影響 3 子どもの身体・情緒・発達面を考慮した日常生活への援助 4 家族の面会や付添いにおける援助 4 周手術期における子どもと家族の看護が理解できる 1 子どもの手術の特徴 2 計画手術と緊急手術・日帰り手術 3 準備状態の把握とプレパレーション 4 周手術期の援助 5 退院指導と継続指導 5 痛みを表現している子どもと家族の看護が理解できる 1 痛みの受け止め方 2 痛みの表現方法・客観的評価 3 痛みの緩和への援助 6 救急処置を要する子どもと家族の看護が理解できる 1 小児救急におけるトリアージと対応 2 主な誤飲物質と処置 3 熱傷の特徴・重傷度及び処置 4 溺水と処置 5 一次救命処置 6 乳幼児の意識レベル 7 生命徴候が危険な状況にある子どもと家族の援助	
事例展開	7 事例を用い様々な状況に応じ看護を展開できる	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【演習】看護過程 <5回10h> 事例展開 (白血病・川崎病・ネフローゼ症候群・喘息・心疾患 などから1疾患をグループワーク) </div>	【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)